







伝統の技が贅をつくした「煌」きらめき

の丹精とめた手づくりの味わいは、金毘羅詣での人々からも広く親しまれてきました。 毘羅さんの麓ではじめた酒づくりがその第一歩。以来、金刀比羅宮のご神酒として栄誉をうけ、そ 金陵の歴史は、今をさかのぼること二三〇余年の寛政元年。当主八代目であった西野嘉右衞門が、金 讃岐の金毘羅酒として親しまれてきました金陵が、酒づくりの贅をつくしておくりだした清酒「煌」

清酒「煌」のえも言われぬ〈風味〉と〈こく〉には、金陵の心意気と酒づくりひとすじの神髄が細やかに

真珠玉のごとく搗きあげ 水晶のごとく研ぎすました酒造好適米(山

清酒「煌」に使っているのは、酒造好適米の中から選びぬかれた最高の大粒米。これを丹念に高度精 白し酒の雑味等の原因となる外層部を削り、磨き、吸水のよい、粟粒よりやや大きい、 か3割ほどの、まるで真珠 田錦 玄米のわず



西野金陵株式会社下 工程を熟達の杜氏が一つ とおり複雑多岐にわたる 造り」といわれている

芳醇なこく、口あたりの爽やかさ、喉ごしのよさ、まさに清酒の芸術品。この稀なる清酒「煌」を、 こうして、清酒のアルコール分、旨味を米だけから造り出した、手づくりの微妙精緻な「煌」を誕生 させたのです。 低温でじっくりつくりあげる。 つこなしていく。杜氏は寒中夜も眠らず、我が子を育てるように精魂をとめ、技の限りをつくして

日本酒をこよなく愛するみなさまにじっくりと味わいつくしていただきたい。 超特撰

> 貴方さまだけの番号です。 ラベル右下に記しております番号は た品質の証し。 ご入手いただいた |本一本責任をもって製造いたしまし

西野金陵株式会社・香川県仲多度郡参平町六二三 電話(〇八七七)七三-四二三三 法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は気をつけましょう。







随筆特集

新型コロナウイルス二〇一九(COVID-19) ほ ろ酔い詩歌紀行

屋根裏で発見した父の博士論文 続々『排風柳多留』

歌、

おれ達の出発、そして別れ

ニトログリセ

リン

佐

Ш

毅

散歩の

秘密

志

村

栄

救急車に乗る

山

西

無

聞

: 4

井

池

子

洋

母

の歌

井

坂

杉

本

忠

夫

: 6

: 8

優 : 10

日 高 昭 : 12

有 弘 : 14

志

村

: 16

彦

至 : 18

酒と肴・魚~サワラという魚の面白さ

パ

ートⅢ~フェニキアの風に吹かれて~

山

本

義

久

: 20



絵と文図 箱根空木 中 西 美 子

日本のマザーマシン 高 橋 和 島

万年筆、インク、そしてノートブック うれしい、予期せぬプレゼント 片 岡 義 男

『海ばらにありて歌へる』今村均陸軍大将

宮

地

智

子

: 30

宮

本

富

夫

大木惇夫詩集

絵と文図

国際色豊かなウィーンで

型絵染アートの展覧会とワークショップ 「ホール」の力 Щ さかもと ふさ ::32 本 千 明

妖魔悪鬼の地獄国 (二) 池 田 貴 :: *37*

表紙・グラビア … 日本酒の発酵

: 34

救急車に乗る

山西無聞

睡眠中、胸が苦しくなって目が覚めた。壁の時計を見ると、午前四時過ぎた。壁の時計を見ると、午前四時過ぎた。壁の時計を見ると、午前四時過ぎ

大時に起床し、ラジオ体操をして、 ・ 大時に起床し、ラジオ体操をして、 ・ 大時に起床し、ラジオ体操をして、 ・ 大時に起床し、ラジオ体操を ・ 大時に起床し、ラジオ体操を ・ 大時に起床し、ラジオ体操を ・ 大時に起床し、ラジオ体操をして、 ・ 大時に起床し、ラジオ体操をして、 ・ 大時に起床し、ラジオ体操をして、 ・ 大時に起床し、ラジオ体操をして、 ・ 大時に起床し、ラジオ体操をして、

に乗せられた。 に乗せられた。 に乗せられた。 に乗せられた。 に乗せられた。 に乗せられた。

ているが、理解できるのはこれだけで上がっている。他にも数値が表示されり、血圧は逆に百六十程からどんどんら、血圧は逆に百六十程からどんどんら、血圧計などがセットされた。体温はや血圧計などがマットに固定され、体温計車内ではベッドに固定され、体温計

ある。

同乗している家内が、そっちを見ないで私の方を見ろ。という。家内の方を見ると、心臓は更に痛みを増してきた。これは顔を左に向けたことで体もた。これは顔を左に向けたことで体もたことによるもので、家内の睨み付けているような顔を見たことによるものでは決してない。と思う。多分そうだろう。

は、どんどん上がり、二百を超えた。の方へと向き直った。血圧計の表示少しでも楽になりたくて、また器具

段々と冷たくなっているのか。と絶望計は三十五度まで下がった。ああ、あろうか、数字が点滅しだした。体温二百を超えると危険を知らせるためで

的な気分になった。

隠していた。ということになると思う。『何のための金か』と聞かれて「万一とはにそなえている。がましいこといと思います」「なにかやましいこといと思います」「なにかやましいこといと思います」「なにかやましいこといと思います」「なにかやましいことに使おうと考えているんでしょ」「そんなこと全然考えていませんよ」「あのう、パピプペ、パピブペ、パピブペ、「何のための金か」と聞かれて「万一「何のための金か」と聞かれて「万一

れにならないタイミングで言わなけれ れるのもいやである。そうすると手遅 かるとヘソクリを隠していた。 してしまうだろう。といって、 品は全てゴミと思って、そのまま処分 まったら、 家内に言わずにこのまま死 家内のことだから、 と思わ もし助 私の遺 んでし

の方は見ないことにした。 ろうか。と、悶々と考え続けた。家内 死ぬときは何らかの前兆があるのであ ミングはいったい何時だろうか。人が ばならない。と思うが、さてそのタイ

ことは無いので、記憶していなかった ている。 ばならないので、自分の名前は記憶し の前には必ず自分の名前を告げなけれ をいくら考えても思い出せない。診察 るか。と聞いた。ところが先生の名前 いてくれた。私の名前を呼び、私が解 着いた。主治医の先生が入口で待って しかし先生の名前を聴かれた

いたのか、やがて掛かりつけの病院に を受けている病院名を、家内が告げて

私が高血圧と不整脈で定期的に診察

ことをようやく思い出した。覚えてい

れた。

て常時所持しておくようにと、指示さ

先生もあきらめたようだ。それから後 ないことは思い出すことはできない。 のことはよくは覚えていない。 入院して心臓カテーテル、心 エ

0)

コー、 きな風呂敷にタオル、洗面用具、パ ジャマ、着替えの下着、退院時の洋服 なった。その時、家内が唐草模様の大 脳のCT検査などをすることに

0) 周章狼狽などということには縁がない 持ってきていることを知り、家内には 康保険証とキャッシュカードまでも 到振りに感心した。後になって私の健 沈着冷静な対応と、準備万端、用意周 などをいれて持参していたので、その かな。と思った。

トロペン舌下錠という薬をお守りとし 後も同様な胸痛が必ず起こるので、ニ ほどと思った。更に主治医からは、 の一つであるとのことであった。なる 断された。原因としてはストレスもそ なっており、突発性狭心症であると診 検査の結果、血管は年齢相応に狭く 今

> は、目を輝かして とがうれしかった。小学三年の孫息子 ちゃん」と話題の中心人物になれたこ 日ばかりはいつもと違っている。私が 立たないようにしているのだが、この 話の中に入ることもなく部屋の隅で目 た。いつもは、娘たちが来ても、 主役である。「おじいちゃん」「おじい 娘夫婦と孫達が見舞いに来てくれ 退院後の最初の日曜日に、 早速二人

な、すごいな」 「おじいちゃん救急車に乗ったん 「そうや、偉いやろ」と、私は得意

になる。

らせてしまった。すると、すぐに家内 ばかり考え続けていた。とつい口を滑 の中では死を覚悟して、ヘソクリを置 いている場所をいつ言おうかと、それ そして調子に乗って娘達に、救急車

通しよ」と、言って のことだったら、とっくの昔からお見 「机の二段目の引き出しの三十万円

呵。呵」と、大笑した。

新型コロナウイルス二○一九(COVID−19)



虎の門病院 内分泌代謝科

日より何人増えた、減ったとの報道が 羅患者数のニュースがあり、そして前 チを入れる度に、本日のコロナの新規 イタイ等マスコミにおいては、スイッ ID-19) は新聞、TV、ラジオ、ケ D-19)について少しみてみましょう。 新型コロナウイルス感染症(COVI けて、国民の皆様の関心が高まった 二〇一九年末から二〇二〇年末にか 新型コロナウイルス感染症(COV

されております。

この疾患は新型コロナウイルス感染 コロナの由来はこのコロナウイルス (COVID-19)と呼ばれています。

中止、公園の閉鎖、サラリーマン、学 大を予防するために種々なイベントの

また、新型コロナウイルスの感染拡

せが及んでおります。 術館等の閉鎖など、国民生活にしわ寄 生のテレワークの開始、 学校閉鎖、 美

ID-19) は二〇二〇年三月に政府に より指定感染症に登録された新しい疾 新型コロナウイルス感染症(COV

ルスです。

さでエンベロープを被ったRNAウィ 径一〇〇~二〇〇ナノメートルの大き 界で七番目のコロナウイルスです。直 味し、このウイルスは王冠を持った世 の構造にあります。コロナは王冠を意

ス感染症です。 になると死に至る恐い呼吸器系ウイル た風邪症状を伴った伝染性疾患で重症 二〇一九年に中国の武漢市で発生し

けやすいので、その作用を利用してア ロープが脂溶性のためアルコールに溶 等が知られております。このエンベ 他の四種のウイルスとサーズ、マース として中国各地をはじめ、イタリア、 ルコール消毒が行われております。 この感染症は、中国の武漢市を基点 このウイルスには感冒の原因になる

染を広げてきました。 カ合衆国などを巻き込み、 スペイン、イギリス、イラン、アメリ 日本にも感

デミックの情況にいたっていると警告 をみせておりWHOの事務局長はパン ジア諸国、アフリカ諸国にも感染拡大 最近、ブラジル等南米諸国、 東南ア

ころでコロナウイルスの感染が人から イブハウス等人々が密集的に集まると 人へと広がり始めました。 日本では、クルーズ船、屋形船、 ラ

しております。

離期間は二週間とされております。 です。したがって、罹患した場合の が平均四日間といわれ、最長で二週間 新型コロナに罹った場合、潜伏期間 隔

と同じように診ていただくだけで治ま 症で感染力はありますが、 新型コロナに罹患された八○%が軽 普通の風邪

た方の一四%は重傷肺炎になるといわ た方々です。この二〇%の肺炎を来し 問題は残りの二〇%の肺炎を併発し

述べましたようにウイルスを覆ってい

型コロナウイルスの弱点は先ほど

るエンベロープが脂質二重膜と糖タン

も治まっていることを祈っております。

れております。

ることがあります。 ません。しかし、その中の二割程度の みましょう。新型コロナ初期は、 方々に三十八度未満の発熱と咳を認め 四割の方が、発熱などの症状はあり では、新型コロ ナの臨床症状をみて 全体

等の治療が必要となります。 発し、呼吸困難に陥り点滴、 酸素吸入 重症な方

更に、その中の二割の方が肺炎を併

て抗ウイルス効果を発揮しています。

これにヒントを得たのか、一時大国

きない方もおられます。このように新 型コロナウイルスは、人々に災難をも の中には人工心肺を使用しても延命で

たらしています。

といわれております。 方々が新型コロナの犠牲になっている 最近では、世界で五〇万人以上の

特に高齢者や他に慢性疾患(糖尿病、高 ないように身体を鍛えておきましょう。 分に注意していただき、コロナに負け 血圧、脳梗塞等)を持っている方は充 この新型コロナウイルス感染症は、

> 毒がこの見えない新型コロナウイルス がアルコールに溶けやすい(壊れやす 番外側のエンベロープ(脂質二重膜 パクで構成されています。 のエンベロープの脂質二重膜を溶かし い)ことが解っており、アルコール消 つまり、

らどうか、という発言があったという 症の治療にエタノールを皮下注射した の大統領が 、新型コロナウイルス感染

した。 型コロナウイルスを消毒・退治しま き、エタノールという天下の宝刀で新 報道があり話題になったことがありま エタノールの皮下注射療法はさてお

はマスクを着用して新型コロナウイル こまめにアルコール消毒し、 スに罹らないように頑張りましょう。 ナウイルス感染症(COVID-19 この拙文が世にでる頃には新型コ 外出時に

そして、国民は手が荒れないように

しょう。

母の歌

ていた母・内野潤子が亡くなって一年 い間 「酒林」にエッセイを連載し

きることができた。 なったが、先生のお陰で六年も長く生 問医のF先生に診ていただくことに から数ヶ月という余命宣告を受け、 血液の病気で、通っていた大学病院

う夢をもっていたらしい。同人誌に何 章を書くことを楽しんでいた。 までは食事も作っていたし、短歌や文 ベッドに縛られた生活だったが、それ 母は若いころは作家になりたいとい 最晩年の半年は足が立たなくなり、

> た。 とが豊かな創作につながると信じてい 時に、若山牧水系の歌誌「長流」に所 あったろうが、暮らしを大切にするこ 先していたので、書くことに制限は 感想を書く欄なども受けもっていた。 属し、毎月短歌を発表し、若手の歌の 作か書いたのを読んだことがある。 家庭人として生きることを何より優 同

う。 寄せて坐るめんどりを自分のようだと んなふうだった。三つの卵のうち、最 いう意味の一首があったが、まさにそ とても母性愛のつよい人だったと思 母の歌に、卵をたくしこみ、砂を

母は食べていたのだと思う。

きょうは食べるぞ、きょうはもっと

を口に運ぶ私たち身内の手や指まで、 べやすいようにちぎったり、スプーン 等々。それらつましい食べものを、食 ゼリー、あんまん、アイスクリーム うにも感じられる。焼き芋、フルーツ ものであり、今思うと母の気遣いのよ く、叶えてあげられる安価で手ごろな 求を口にした。それは特別なものでな 初に生まれた私の出来が一番悪く、母 井 坂 洋

はひたすら庇って育てた。だから介護 母は何々が食べたいとさいごまで欲

は僅かなお返しにすぎない。

う。 いだされる。なんと前向きなことだろ 元気になるぞと、布団から腕を突きだ 両手をニギニギしていたことも思

うに顔を向けていなかった。 つけるだけになってさえ、母は死のほ てメロディラインを失い、歌詞に節を れず、声自慢だったその声もしゃがれ 両足で立つこともできず、短歌も作

える小さな字で何か書いていた。猪突 と思ったら貫く人だった。 猛進というほどではないにしろ、こう てきて」と言って、文字とも言えぬ震 「体を起こして」と言い、「紙をもっ

靴下をはきたる足がたえ間なく 乳母車より宙をけりゐる

母の歌を何首か挙げたい。

二人のひ孫は関西に住んでいてめった に会えないが、母の住んでいる部屋の ひ孫の凛(男)を詠んでいる。 人もった。この歌は、今年九歳になる 母は子を三人、孫を六人、ひ孫を三 あとの

> なぐさめになったことかと思う。赤ん 見守ったことが、どれだけ老いた母の く残している ぼのころから元気だった凛の歌を数多

すぐ上に凛たち一家が暮らし、成長を

正月の餅食ふ夢を抱きつつ 密林の兵ら骨となりしか

思っていた。特に好きだったのは次の が好きで、自分を代弁してくれる詩と おれた世代の母は、茨木のり子の 昭和三年生まれで、 「わたしが一番きれいだったとき」 青春を戦争に

奪

発っていった」。母の「正月の餅……」 争は絶対悪だと子に言い、 からこその生々しさがあると思う。戦 の歌は、食べることが好きだった母だ なくて/きれいな眼差だけを残し皆 一節だ。「男たちは挙手の礼しか知ら 孫にも言

落とす物みな転がりてベッドの下 欲ばりの神かくれゐるらし

徴兵制を恐れた。

舞っていた。大丈夫よ、が口癖で、亡 中心的存在として、あかるく立ち振る こともいっさい言わなかった。家族の た。また愚痴めいたことや恨みめいた 母はめったに人の悪口を言わなかっ

ので胸が痛んだ。あまり冗談は言わな の顔をうかがい、「大丈夫よ」と呟く くなった日に多量の血を吐いても、私

かったけれど、歌をみるとユーモアを

解する人だったことがわかる。

金持ちの庭ですと植木職人の

笑ひて伐らず千両万両

が、金持ちの庭と言ったのだろう。母 年に二回ほど来てくれる若い庭師さん 首を写しておきたい。 れている。最後に辞世の歌のような 女主人を悼むように枝々や草の穂が垂 が愛した庭は、夏草が繁り、かつての 玄関前の千両と万両がはびこって、

すがれゆく者の傍ら新しき芽は 萌ゆるらし人の世界も

屋根裏で発見した父の博士論文



池

井

(慶應義塾大学名誉教授)

屋根裏での発見

、終活、に備え、また新型コロナウ 、終活、に備え、また新型コロナウ なかった自宅屋根裏の本や書類を整理なかった自宅屋根裏の本や書類を整理なかった自宅屋根裏の本や書類を整理なかった。四百字詰原稿用紙の東と小冊子がでてきた。黄色く変色したと小冊子がでてきた。黄色く変色したと小冊子がでてきた。黄色く変色した根、横書きでドイツ語の文献を交えた枚、横書きでドイツ語の文献を交えた枚、横書きでドイツ語の文献を交えた

医師の家系

し回しの籠に乗って「殿様のお脈拝の大名細川家の御典医を務め、お城差父の家系は代々医師であった。熊本

表紙のタイトルは池井新彌「種痘後

見」にいったと伝えられている。しか し、廃藩置県で大名制度は消滅、加え て祖父が亡くなると急に父の家は没落 て祖父が亡くなると急に父の家は没落 した。三人の男の子を残された祖母は 、肥後もっこす。を絵に描いたような 気丈な熊本女だった。長男は体格が良 く強い性格だったので学費免除の陸軍 大官学校へ進ませ軍人に、次男は地元 の商業学校へ、三男即ち父は「医師に の商業学校へ、三男即ち父は「医師に してくれること」を条件に養子に出し

採用された。伝染病研究所(通称伝後上京、伝染病研究所に研究員として

研 研に入所したときすでに他界していた 学校から東京医学校で学んだ。 した。北里は肥後熊本の出身、 菌学の北里柴三郎を所長に迎えて発足 的として、ドイツ留学から帰国 病の原因、予防、治療などの研 は、 一 八九二年日本における伝染 父が伝 熊本医 [した細 !究を目

熊本の縁があったのかもしれない。

父の死

医学博士号を取得し、

母と結婚した

父は開業を考えていた。大病院勤務や

る以外、 れていず、栄養をとって安静にしてい 究所の研究員が罹病することになった の研究と対策の中心であった伝染病研 のトップであり不治の病とされた結核 に侵されたのだ。当時の日本の伝染病 れは徒労に終わった。なんと父は結核 か、土地探しが始まった。しかし、そ 科医として開業するのはどこがいい 生きていくのがいいと考えたのだ。 研究者より街の「お医者さん」として である。 適当な治療法がない時代で 特効薬ペニシリンが開発さ 内

> もつかの間、妻と一歳十ヵ月の息子を 0) 客にニコニコする息子の姿に「坊やは 残して父は天国へ旅立った。 お父さんが亡くなったことが判らない ね」と人々の涙を誘ったという。 悲嘆にくれる母に対し大勢の弔問 葬儀 0

あった。長男の私が生まれて喜んだの

教育ママに育てられて

了までぐらいなら生活はなんとかなる

同じ研究の道を進みなさい。大学院終

即ち私の教育に向けられた。小学校は ることにした。母の生きがいは息子、 て「お習字の先生」として生計を立て 費を抑え、得意だった書道を活 て郊外の小さな借家に引っ越して出 の本郷の大きな家を売り、 どう生きていくか考えた。東大の近く 二歳にならない幼児を残された母は 祖母を伴っ いかし

もできた。

明けると「専門は違うが、お父さんと べきだと考えた。悩んだ末、母に打ち たから就職し、給料を得る道を優先す との勧めがあった。母には苦労を掛け ら大学院に進学し、大学に残らないか あった。大学卒業を前にして、 らめ、選んだのは法学部政治学科 教授か

助教授、教授と順調に昇進してい 終え、大学に残って助手、専任講師 リカに留学することもできた。留学を まで進み、某財団の資金によってアメ た。この間法学博士の学位を得ること から…」。こうして大学院の博士課程

究所に勤務していた父の博士論文が し、混乱を招いている今日、伝染病研 のメッセージを貰った気がしてならな うした状況で頑張るんだぞ」と励まし 八十八年振りに出てきたことは、「こ 新型コロナウイルスが世界中に蔓延

時代もなんとか生き延び、奨学金を得 始まった。やがて、日米開戦、 させ、英才教育を習得させることから く、電車で通う師範学校の付属に入学 歩いて五分でいける近所の学校ではな

戦争の

は苦手で父の家系であった医学はあき て大学までいくことができた。理科系

ほろ酔 い詩歌紀行 続々 『排風

日

高

昭

(神奈川大学名誉教授

ことにするが、まずは季節を感じさせさらに続けて『排風柳多留』を読む

る初鰹の句から。

初鰹 家内残らず 見たばかり

を食べると七五日寿命が延びると言物を食べると七五日寿命が延びると言われていて、そうした験担ぎもあって、江戸っ子は初物の鰹を食べた。 ただし魚市場に届いたときは、大変ただし魚市場に届いたのだが、それな高値で取引されていたのだが、それな高値で取引されていたのだが、それな高値で取引されていたのは亭主一人を買った。結果、買ったのは亭主一人を買った。結果、買ったのは亭かりがったという句。

初鰹 薬のやうに もりさばき

に、かつ公平に盛りさばくことになる。かも薬を扱うように、大事に、きれいがも薬を扱うよ

鰹と格闘する女房の様子が見えて何とといこったのはいいが、うまくさばを思い立ったのはいいが、うまくさばを思い立ったという。たったひとりでしてしまったという。たったひとりでしてしまったという。たったりを 関守で鰹を 手負にし

たりとりながたところであるう。 の句の妙味は、初鰹と宿場女との恋の た女は、それきり手紙も返さない。こ た女は、それきり手紙も返さない。 に女は、それきり手紙も返さない。 が、届けられ

船で、何よりも鮮度が命という初鰹をところで、神奈川宿といえば、江戸の浮世絵師、葛飾北斎の「富嶽三十六の浮世絵師、葛飾北斎の「富嶽三十六の浮世絵師、葛飾北斎の「富嶽三十六の浮世絵師、「一本の一つ「神奈川沖裏」を思いに大きく盛り上がった大波のあいだいに大きく盛り上がった大波のあいだいに大きく盛り上がった大波のあいだいに大きく盛り上がった大波のあいだいに大きく盛り上がった。

神奈川の文は鰹の片便り

運んだ船だと言われている。そうした

もおかしい。

て心も躍る。 波に翻弄されるような船の様子に改め 江戸の食文化を背景にすると、大きな

物人気が沸騰する直前ぐらいにあたる年(一七六四~八一)から文化・文政年間(一八○四~三○)にかけてとされているが、ここに掲げた句は、宝暦九でいるが、ここに掲げた句は、宝暦九の鰹の人気は、明和・安永年間

藪入りの供へは 母が飲んでさし

こら中 蓋を明け明け 亭主ぶり

商人の蔵の戸が快く、

また音を立て

のいきさつなどどうでもよくなろう。

子どもの頃、学校から帰って台所の子どもの頃、学校から帰って台所のいずの書であろう。「亭主なすための酒の肴であろう。「亭主でなすための酒の肴であろう。「亭主なり」という表現が、女房の留守をブッブッ言っている亭主の姿を彷彿とさせている。

になる。 になる。 になる。

居酒屋で 念頃ぶりは 立ってのみ

「念頃」は常連のこと。店に客が立て込めてくると、常連は気を利かしてでの民衆の姿をみるうえで欠かすことでの民衆の姿をみるうえで欠かな句であろう。こうして酒は、暮らしのなかあろう。こうして酒は、暮らしのなが出来ない。

蔵の戸が鳴ると盃 大きくし

ともなれば、いっそうのことであろう。飲んで、飲んでとなる。祝いの賑やかさ飲んで、飲んでとなる。祝いの賑やかさない。それが祝言ない。ならに盃の器も大きくなって、さあて鳴ってあくと、祝いの声も大きくな

花聟の 馳走にやぶる 村法度

喜びが、これでもかと伝わってくる。が、それも構わず振る舞いたいというは贅沢を戒める掟などがあるのだろうは贅沢を戒める掟などがあるのだろう

ちひさい恋は 蹴散らかし家内喜多留

でもない。縁起酒を飲めば、それまで では「家内喜多留」と書いたという。 では「家内喜多留」と書いたという。 では「家内喜多留」と書いたという。 では「家内喜多留」と書いたという。

おれ達の出発、そして別れ



だ。古いことは悪いことではない。私 鐘」も好きだ。この歌は心に染みる名 いけれど、藤山一郎の歌う「長崎の 夫の歌。長崎好きの私は、内容は悲し はむしろそこに美を感じることが多い。 周航の歌」(作詞・作曲小口太郎)や 聴く。歴史を感じる歌では、「琵琶湖 ……等々、様々である。演歌も好んで 歌謡曲、 の横にラジカセを置いてCDを聴く。 「青葉の笛」(作詞大和田建樹) が好き 島崎藤村の詩「初恋」を歌う舟木一 私は自分で歌うことはしないが、 フォークソング、文部省唱歌

じる歌を好む。さだまさしの「精霊流 私は概して抒情性があり、 愁いを感

向

名曲である。 視座とする、昭和歌謡史に特筆すべき ない。これらの歌は、青春の 繰り返すが、古いことは悪いことでは れば、「古い」と言うかも知れない。 ランの「青春時代」。今の若者からす の「江梨子」、森田公一とトップギャ し」の物哀しい抒情、そして、 〈時〉を 橋幸夫

つも北海道の風景を思い浮かべる。 は北海道に生まれ育った。だから、 いていた。私の先祖は白石藩に仕えて の望む所に住むことはできない、と書 いたが、歴史の流れと共に没落し、 がある。 せいか、 ところで、伊東静雄は、 北海道ゆかりの歌を好む傾 北原ミレイの歌う「石狩挽 誰もが自分 そ V 私

> 事な歌唱力。また、 は平原綾香)

伊藤久男の歌う

サロマ湖の歌」(中山正男作詞)

サビタの花」。

れる「カンパニュラの恋」(作詞 マ「風のガーデン」(倉本聰作)に流

歌

の美しい旋律と平原の見

思う。富良野を舞台とするテレビドラ た。よくぞ「オンボロロ 歌」(作詞なかにし礼)に誘われて、 ロ」という詞が思い浮かんだものだと 小樽の石狩挽歌の碑を何度か見に行っ 志し 相模女子大学名誉教授文芸評論家 村ち 有 オンボロ 弘な

であった。中山は小説「馬喰一代」の 男の妻の妹が小説家・歌人の金子きみ 作者。この作品は映画にもなった。 「サロマ湖の歌」を作詞した中山 私は、 **榊山潤** (作家) を偲ぶ会で 正

中山正男のこと、北海道のことなど詳 あった。金子きみと親しく語りあい、 でいたはずだが……と、歩いたことも で、金子はこの街のこのあたりに住ん 下駄屋」という金子の歌を思 んだ旭川 二条通り十八丁目 の死後、「少女の日 なく、金子は他界してしまった。金子 年に一度金子と顔を合わせていたのだ 結局、親しい言葉を交わすことも 没落の一家の住 小さな 旭川

みじみ思う。 私は二〇二〇年二月、学生時代の二

しく聞いておけばよかったと、今、し

の親しい友と死に別れた。大坪弘

月二十七日没)。ほぼ同時に親友二人 道(二月二十二日没)・大井三敏(二

高等学校の職を辞すとき、新たに行く 井と私は何度か同じ下宿に住み、 私は激しい衝撃を受けた。大 私が

寄ってくれた。二人とも文学がなによ ことになっていた県立高校の職を辞し 学生時代から絶えず、私の下宿に 大坪は公務員の道に進んだのだ 私の後任の役を引き受けてくれ

> を読んでいた。大井はノートに小説の 死に感じる悲しさ、寂しさとは異質 しなかった。死なれてみると、肉親の が、突然、この世を去るなど夢想だに 草稿を書き続けていた。ふたりの友

りも好きであった。大坪はいつも小説

……」という歌『あれから十年たった 畳半 友とふたりで手をとりあって を紛らわせようと、「暗い下宿 い辛さ、息苦しさを感じ続けた。 の、もっと切実で、どうにもならな 気 四

ても いつも変らぬ 友情に……」と てみた。また、「流れる雲は いう『男の友情』(船村徹歌)を聴い ちぎれ かなァ』(春日八郎歌)のCDを聴い

なかった……、と後悔し、自分の感傷 てみた。このような歌を聴くべきでは Dを手にしたのだ。当然、在りし日の 癖に狼狽・当惑したが、自然とこのC

あった。中谷の小説「抱影」は、小説 あった。 友の姿を思い出し、 中谷孝雄は私が崇敬し続けた作家で ただ悲しいだけで

迎えた。

家外村繁の病と死を綴った、

作者の悲

ふれてきた」と記している。 たのだ」と言い、「感傷に沈みたくな して梶井よ、かうしておれ達は出発し 燃えてゐるやうだつた」、「外村よ、そ を見て、三人とも「前途への希望にも 外村・梶井基次郎の三人で撮った写真 が死去したとき、 しさが滲み出ている作品である。 かつた」と述べながら、「涙が頬にあ 中谷は三高卒業時に

私たちも卒業する直前に、学校でス

中に、〈友だち〉意識を持ち続けてい ここから「おれ達は出発」し、 借りると、大井よ、大坪よ、ともかく た。みんな若々しく、大井は手を挙げ の訃報に接し、写真を取り出してみ ナップ写真を撮っていた。ふたりの友 た。そうして、今生での別れのときを いる場所は違っていても、いつも心の けている。そうなのだ。中谷の言葉を て笑い、大坪は階段に足を掛けておど 住んで

歌のことを書くはずであった。 ふたりの友の話を書いてしまった。